

もとつころ



丸本家より寄贈を受け、西1号館前通路に設置された三坂耿一郎先生作『壺中天』

平成二十二年十二月、故丸本喜一教授（元初等教育学科理科担当）の所蔵彫刻『壺中天』が、ご遺族丸本修様のご厚意により本学園に寄贈されました。この彫刻は、日本芸術院会員であった故三坂耿一郎教授（元初等教育学科美術担当）の作品で、昭和五十三年の日展で日本芸術院賞を受賞した由緒ある作品です。両先生の生前の親交の証であるこの作品が学園に託され、学生の情操と美的感性を育むうえで役立つことを嬉しく思います。



『佐々木周二先生』寿像と『梟』（中庭）

私が三坂先生を知ったのは、昭和三十一年に久我山中学高校に奉職したときでした。当時の木造校舎の正面玄関に設置されていた青年男子の裸の座像が、三坂先生が在職中の第三回日展（昭和二十二年）に出品し、初めて特選となっ

た「青年時代」であることを知りました。先生は、昭和十九年四月開校時の旧制久我山中学校の職員で、退職後も折にふれて久我山に見えておられました。間もなく校長の佐々木周二先生と三坂先生の交わりの深さを知り、また先生の次男玄君が久我山に入塾して、柔道部に入部し私の教え子となり、先生との係わりが深くなったのです。

私が栃木学園に移って短期大学の創設の仕事に携わり、佐々木先生の仕事をより緊密にお手伝いするようになり、昭和四十三年に初等教育学科が増設されますと、佐々木先生の構想にあったこととして三坂先生が美術担当の教授に就任されました。先生は、敬愛する親友佐々木先生を補佐する立場の私を、年の離れた同僚として遇してくださいました。先生のお人柄は接した者が誰でも感じるように、隔てのない、誠意に満ちた、優しく温かく、ユーモア溢れるお人で、片時も傍らを離れたくないように感じさせました。先生には人と



『女童』（西2号館前）



『朗抱』（西1号館前）

しての生き方についても、長いお付き合いの間に言葉や作品を通じて、多くのことを教えていただきました。三坂先生の人と作風は、當代随一の見識の確かな美術評論家河北倫明氏からも高い評価を受けていました。先生と同世代の多くの大家が、作風を固定しマンネリ化していた中で、先生の作品は常に高きを目指し、深みをまわしていたように思います。

先生のご逝去は早すぎました。日展や日彫展で、先生とあの和やかな一刻がもてなくなつて久しい今、新たに本学



『ジュールの少女』（睦会館）



『母子像』（二杉幼稚園）

園に名作『壺中天』（昭和五十三年制作）がもたらされ、創立四十周年記念館への通路脇に設置されました。この彫刻の味わいに触れ若者たちの心を豊かにしてくれることを願っています。

学園には他に五つの三坂先生の彫刻があります。「壺中天」に並んでいる『女童』（昭和四十九年制作）、短大西一号館前の『朗抱』（昭和四十六年制作）、本館と生徒会館の間の中庭にある『佐々木周二先生と梟の像』（昭和六十年・六十二年制作）、睦会館前の『ジュールの少女』（昭和五十二年制作）、二杉幼稚園の『母子像』（昭和五十年制作）があります。また、栃木市立図書館には『翔』が設置されています。（好）



『翔』（栃木市立図書館）